

● 短編劇作品集

4 集

予防注射 野田市太郎

郭公 町井陽子

和助阿弥陀 三原昇三

三嫁 桜本英二

どき 一柳俊邦

新版浮世床妣之国夢通路 野辺由郎

みんなチッキタッキ 米谷茂和

隅田川 榊原政常

青雲書房

編集委員

福 田 薫

野 田 市太郎

神 宮 茂十郎

短編劇作品集 4 集

定 価 680円

初版発行 昭和51年 5 月20日

再版発行 昭和53年 4 月15日

編者代表 福 田 薫

発 行 者 川 原 昇

発 行 所 青 雲 書 房

東京都文京区大塚 3—20—4

振替東京 0—69543 番

電話 (03) 944—6002 番

印刷・殖産堂 製本・田沢製本

1074—1022—3955

短編劇作品集

4 集

青 雲 書 房

は　じ　め　に

多幕物の劇が一幕物より秀れているという考え方は、全く、おかしい話です。短い詩が長い詩より文学的価値が劣るなどという話は聞いたことがありません。短い詩はそれなりに、作者の尖鋭な魂の断面がのぞかれるからです。

短い劇にも同じことが言えます。短いなりに、作者の眼がキラリと光って、人生の急所みたいなものを鋭く指摘しているからです。

私たちは以前から、一幕物の中でも、ごく短く凝縮された形のがほしいと思っていました。しかも、それは、教室でも、座敷でも、食堂の一隅でも、どんな所でもスペースがありさえすれば上演できるような劇、それでいて、作者の精魂がこめられたもので、正式なステージでも当然上演できるような劇を考えていました。——そういう劇を何と名づけたらいいでしょうか。この作品集では無難に短編劇としましたが、——

こういう脚本がほしいというのは私たちばかりではありません。職場でも、学校でも、数多くの人々の声をききました。

ちょっと、何かの会合で、手軽にできる劇はないかと探すと、何もない。仕方がないので、世話人にまかせておくと、器用な連中がでて、漫才やコントをテレビタレントを真似してやる。じょうずとか、へたとか評価するに至らない、見ている方が恥かしくなるようなものばかりだ。こういう時の脚本集みたいなものはないだろうか、と。

こういう趣旨で前回、第1集、第2集を十六人の作品で構成して世に送りましたが、今回もまた青雲書房のご好意で、この企画を上梓にまでこぎつけることができました。

ここに掲載した作品は、それぞれにその作者が精魂こめて書き上げたものですから、皆様の学校や職場で、発表会や、何かの会合の問題提起や、部活動の稽古用にお使いいただけるのももちろんですが、コンクルの上演台本としても十分お役に立つと信じます。

上演にあたっては、どうぞ、まずじっくりと皆様でお読みになって、作者の訴えようとする心をつかんでください。そして、皆様の共通理解の上に立って、くふうし、趣向を凝らして、上演してください。

この作品集が、皆様の思い出のレパートリーとして、蓄積していただければ仕合わせに思います。

一九七六年 五月

「短編劇作品集」編集者代表 福田

薫

△もくじ▽

予防注射……………野田市太郎……………七

郭 公……………町井 陽子……………四一

和助阿弥陀……………三原 昇三……………六三

三 竦……………桜本 英二……………九一

ど さ……………一柳 俊邦……………一〇九

新版浮世床妣国夢通路……………野辺 由郎……………一三三

みんなチツキタツキ……………米谷 茂和……………一六三

隅田川……………榊原 政常……………一八七

作者住所

上演許可願について

予 防 注 射

野の

田だ

市い

太た

郎ろ

中島さん
原田さん
吉川さん

団地のマーケットのそばのバス停留所の近くで。

犬を連れてハイカラな日傘をさし買物籠を提げているのが中島さん、乳母車をひき買物袋を持っているのが原田さん。犬はどうやら縫いぐるみだし、乳母車の中の赤ちゃんはお人形らしい。中島さんはどちらかといえばまだ幼な顔の残っているおしゃれな若奥さんだが、原田さんはもう少し少々ぬか味嗜くさい。かなり早い会話、そして困惑。

中島 そうなのそれが、だからどっかでお目にかかったことがあるって、そうははじめから思ってたんだけど、はっきり思い出せなくて、それでさっきから、ごめんなさい、たしかどっかで、ほら

原田 そうなのよあたしも、よく憶えてなくて随分失礼しちゃってると思うんだけど、そこがあいまいで、こんなのってどう言ったらいいんだろうって、よく分らないんだけど、なんかの時にとてもご親切にしていただいたみたいな、ううんそうじゃなくてとても楽しいことを一緒に貰って、そんなような

中島 だったかしら、なんかそうじゃなくてもっと、だめね、やきもきしちゃうんだけど、でもそれはたしかに楽しかったって言えば言えないことないけど、もっと深くて、哀しみみたいな楽しさで、そうよ、妙になまなましいくせに、思い出そうとすると、すうっと逃げてっちゃって

原田 そうだわ、それなにも奥さんのせいだったって言うんじゃないけど、かなり不愉快で下劣な感じの、こんな馬鹿な嫌なこと二度とするもんですかって、奥さんとあたしと、そう、そんなんとか言ったわ、奥さん

中島 被害者同志

原田 そうそれよ、その被害者同志の

中島 連帯感

原田 連帯感って奥さんがあたしに

中島 あなたがあたしに。そうね、あの時ね

原田 あの時だわ

中島 でしょう

原田 たしかよ、だったわ

中島 かんたんね

原田 まるっきり、馬鹿みたい

中島 やだわ

原田 やだあ

二人笑う。

中島 それでどうだった

原田 なにが

中島 なあに、いつ、どこ

原田 どこって

中島 どこ、いつだった

原田 あら、奥さん分ったんじゃないの

中島 ある程度ね。あたしは思い出したけど、あなたどうかと思って、だって失礼じゃない、まるっきし違う話だったら

原田 そんなことないわ、あたしはそんなに物覚えのいい方じゃないから

中島 あたしね、拔群なのよ記憶力は、そんなつまらないことよく覚えてるなって主人にもよく言われるわ、学校の時だって先生にほめられっぱなし、数学の公式だってフランス革命の年だって

原田 それいつ

中島 なに

原田 フランス革命の年

中島 いまそんな話してないわ、あなたどこであたしと会ったのか思い出せたんでしょ

原田 ええ

中島 いつ、どこ

原田 ここまで出なかったのよ、（のどをさして）ここまで

中島 それで

原田 （けろりとして）忘れちゃったわ

中島 忘れたっていま、あきれた、調子いいのね、びっくりしちゃうわ

原田 本当よ。奥さんこそ

中島 あたしは、あ！

原田 なに

中島 やだ、（のどをさして）あたし今ここんこまで

原田 のぞいてみましょうか

中島 あなたが悪いんだわ、フランス革命がどうのこうのっていうから

原田 いつでした

中島 一七八九年よ

原田 なに

中島 フランス革命！ 待ってよ、一度思い出せたんだから、きつとすぐ分るわ。それで

しよあなたも

原田 ええ、やってみるけど。何かこう、そのために奥さんとあたしの心が通じあったと
いったらいいのかしら、そんな深い喜びをご一緒したといったらいいような

中島 でしょ、そうなのよ

13 予防注射

原田 晴れた日だったかしら

中島 ええ陽ざしが強くて

原田 運動会、じゃない

中島 団地の

原田 ううん子供の、学校

中島 違うわ

原田 だったら幼稚園

中島 無理よ、だから

原田 保育園

中島 駄目なの、あたし子供がいないもの

原田 あらおひとり

中島 主人はいるわ

原田 おつとめ

中島 ええ

原田 じゃあ会社の

中島 ご主人おつとめ

原田 うちが店やってるの

中島 それじゃ話にならないわ……海へいらっしやる

原田 暑くて

中島 山は

原田 高いんでしょ、あたし高いところって駄目なの、デパートの屋上だって。デパートかしら、バーゲン

中島 そんなとこだった

原田 じゃないわね絶対に、もっとなにかこう

中島 じれったいわね

原田 どこにいらっしゃるのいま、この団地

中島 二八号、三階

原田 じゃ神戸さんところじゃないわ

中島 あなたは

原田 五号館

中島 それじゃ加藤さんご存知、ピアノの先生

原田 ピアノのねえ

中島 ご主人が絵をかいてらっしゃるの

原田 長谷川さんなら知ってるわね、彫刻家よ旦那さん

中島 知らないな。美容院どこへ行くの

原田 かのこ

中島 あそこ、安い

原田 お店のわりにはとるわ

中島 あたしはモンパリだし

原田 駅前

中島 ええ

原田 小火^{ぼや}でした

中島 火事

原田 知らない

中島 知らないわ、いつ

原田 いつだったかな、ずっとせんよ。あそこは安いって言うじゃない

中島 でもないわ

原田 お風呂、おもて

中島 ううん、うちにある

原田 あたしととも。それじゃお風呂でもないわね

中島 北集会所じゃない、婦人の集い

原田 あたしのあたりは西集会所なの

中島 だったら合流したことあるわよ

原田 ほんと